

見える身近な
みんなの県政を



日本共産党県議会議員

みわ由美 ホット通信

第15号 2010年12月20日
日本共産党みわ由美事務所
Tel 047-349-1544 Fax 047-349-2293
〒270-2252 松戸市千駄堀1810-2
HP「みわ由美笑顔通信」
http://www.miwa-3838.jp/
携帯 http://www.just.st/306410/

みわ県議 9月議会の代表質問で知事に提案 住宅リフォーム助成制度の検討を約束

全国の地方自治体の約1割の175自治体に広がる「住宅リフォーム制度」。

千葉県いすみ市では、以前にもバリアフリーに限ったリフォーム助成制度がありました。目的の制限をはずし、地元業者に限定し、地域経済の活性化を目的とすることを明確にしました。

これが大好評で、6月議会でも、9月議会でも



「リフォームできて嬉しい。台風が来ても安心」と喜ぶ高齢者のお宅を訪ねたみわ県議（いすみ市）

—住民も業者も大歓迎—

者は、「屋根のカワラの補修だけでガマンと考えていたけれど、お金が出るっていうので、玄関のタイルや網戸、若夫婦の別宅の雨漏りのする外壁屋根の修理もやって頂いた。13万円の助成金が出て嬉しい」と話しておられました。

「申し込み相次ぐ」といすみ市長



いすみ市の大田市長と懇談するみわ県議と小松原議団長ら。「毎日のように申し込みがある。小さな街で大きな仕事ができる」「県の制度を作れば、後に続く市町村が出るはず」と大田市長。

働きかけてきた千葉土建いすみ支部の皆さんから、貴重なお話を聞かせて頂いた。

「仕事が増えた」



いすみ市に対して20年越しで働きかけてきた千葉土建いすみ支部の皆さんから、貴重なお話を聞かせて頂いた。

全国各地で大好評 住宅リフォーム助成 「波及効果最大の地域経済対策」

事業	経済波及効果倍率
定額給付金	0.5倍
プレミアム付き商品券	4.8倍
住宅リフォーム助成	10.9倍

(兵庫県明石市の資料から)

秋田県はことし3月から目的に制限を設けないで、20万円を上限に工事費の10%を補助する制度をスタートしました。予想を上回る利用状況のため、8月に臨時議会で21億円以上に大幅増額しました。

秋田県 当初予算を倍増21億円に その24倍の経済波及効果見込む

県内経済への波及効果の見込みは「約512億円」と県当局者はしています。



地元業者の仕事づくりに最適

「仕事がぼったりなくなった。とにかく仕事が欲しい」「大手の進出で地元業者には仕事が回ってこない」——中小業者の悲鳴が聞こえてきます。

大企業は大もうけをしているのに、日本経済全体は内需不足でさらに景気が悪くなるばかりです。

家計を直接応援し、内需を底上げする政策として、住宅リフォーム助成制度は業者の仕事づくりにも最適です。千葉県での実施を強く求めます。

いすみ市 毎議会予算増額 10月は21・5倍の効果

千葉県いすみ市では、以前にもバリアフリーに限ったリフォーム助成制度がありました。目的の制限をはずし、地元業者に限定し、地域経済の活性化を目的とすることを明確にしました。

宮古市で4・5倍、 明石市で11倍の経済効果

岩手県宮古市では総工費は20万円以上の上の工事一律10

増額をくりかえし、10月の工事では効果倍率21・5倍です。

市では経済効果は4・5倍になるとみています。畳屋、塗装業など建築関連業も受注が増えており、波及効果が大きいことを示しています。

歩いた、走った！ 安心できる生活道路へ緊急改善を 苦情と住民の声イッパイ——“動く対県交渉”



剥がれた歩道

高橋市議らと共に「松戸駅前メイン通りの歩道改善を」と



「駅前商店街の水害対策を」と
うつの市議らと共に

集中豪雨で閉店に



通学路なおし

山口市議らと共に、「上本郷通学路の改善を」と



車いすは、ムリ？

高木市議らと共に「電動車いすの方も歩ける道路に」と栗ヶ沢で

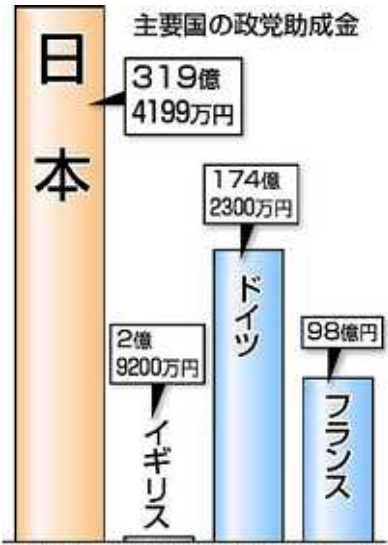


危ない歩道

伊藤市議らと共に、「六実の県道歩道早く改善を」と

千葉県でも、ムダな大型開発と言われるものへの税金を
つぎ込むことはまだ続いています。その一方で、住民の
方から生活道路や側溝などについて苦情が出ています。

今も続く ムダな大型開発の陰で 進められぬ生活道路の改善



（国会図書館の調査などから作成。データは2010年2月現在）
企業・団体献金の「二重取り」を続ける日本の異常さが際立っています。憲法違反の政党助成金を撤廃し、政治をゆがめる企業・団体献金も禁止しましょう。

政党助成金、企業・団体献金キツパリ禁止せよ 日本共産党はどちらも受け取っていません

民主党は、昨年の総選挙マニフェストで企業・団体献金の全面禁止を掲げ、昨年9月の政権交代のあと一部の企業献金の受け取りを「自粛」。しかしこの10月には受け取りを再開すると発表したのです。
企業献金を受け取るかどうかは、政党の顔が国民に向いているのか、財界に向いているのかをはかる最大の試金石です。民主党の今回の態度は、財界中心の軍門に下るといって、同党の自民党化を象徴的に示したのと言えましょう。国民の思想・信条の自由を侵害する政党助成金と、

**企業・団体献金の受け取り再開の民主党
選挙での公約を投げ捨てる民主党**

「ムダをけずる」というのなら
政党助成金はやめるべき
2009年の政治資金収支報告書からは、民主・自民の「税金依存体質」、政党助成金を聖域あつかいし、苦勞せずじ党財政をまかなおうという姿勢がみれます。
日本の政党助成金の年総額約320億円は、イギリス・ドイツ・フランスなど主要国の中で最高額。「無駄の削減」といって国会議員の定数削減を叫ぶ民主党政権は、政党助成金については上限額も使途も制限していません。



暮らし応援に、ダッシュ！

日本共産党千葉県議会議員 みわ由美

市議会議員選挙では、大勢の方からご意見ご要望を頂き、有難うございました。5人の新しい党松戸市議団（高橋たえ子・うつの史行・高木健・伊藤よいちろう・山口正子市議）と力を合わせて、《暮らし応援》《無駄と不正は厳しくチェック》で、がんばります。



今度は県議会議員選挙です。千葉県の財政力は、全国上から5番目の高さ。ところが、特養老人ホームや保育所の定員数、医師・看護師数（人口比）など、医療・福祉は全国最下位クラスの低さ、雇用も深刻です。なくせ貧困、守れ生命——あふれる願い実現へ、トコトン頑張ります。